

IR誘致を契機にギャンブル等依存症の抑制を図るため、高校生を対象とした依存症の予防教育に取り組むほか、依存症対策のトップランナーをめざし、全国をリードする依存症対策の構築に向けた検討を進めます。

主な取り組み

(1) 依存症の予防に資する教育・啓発活動の推進

① 高校生向け依存症予防啓発推進事業

府市健康部局等と協力し、専門家の監修も得て作成
高校3年生を対象に12月にリーフレットを配布(約90,000部)

(記載内容)

- ・ギャンブル等の仕組み
- ・ギャンブル等依存症の定義
- ・予防のための知識(背景・原因・兆候・対応) など

② 府内高校連携モデル事業

依存症予防等に関する出前授業を10校程度で実施
講師は、大阪精神医療センター医師等を予定
対象学年は学校の希望により実施

(授業内容)

- ・ギャンブル等の仕組み
- ・ギャンブル等依存症の定義
- ・予防のための知識(背景・原因・兆候・対応など)
- ・相談窓口の紹介 など

7月2日(月)大阪市立都島工業高校で実施

対象:全日制3年生367名

講師:大阪精神医療センター 中林大二医師

③ ギャンブル等依存症予防セミナー

府民、市民、支援者などを対象に予防・啓発を実施
3回程度開催

(内容)

- ・依存症の症状、早期発見・早期介入の重要性など基本的知識の普及

第1回 8月8日(水) 14時30分～ 場所:大阪大学中之島センター

講師:神奈川県精神医療センター 医療局長 小林桜児 医師

(2) 全国をリードする依存症対策(=大阪モデル)の構築

依存症抑制のための「大阪モデル」の構築に向けた調査・研究を行うことを目的に、ギャンブル等依存症対策研究会を設置・運営

(テーマ)

- ・ギャンブル等依存症の実態把握に向けた調査・研究
- ・IT技術の進歩を踏まえた先進的な依存症対策の研究
- ・大阪独自の依存症対策のあり方研究

(開催頻度)

- ・第1回研究会を5月29日(火)に開催
- ・以降、6月から月1回程度で開催予定

(調査・研究成果と区域認定プロセスとの関係)

調査・研究をふまえ、IR事業者に求める対策や海外事例を参考にし、より先進的な対策などについて検討を深め、IR推進局において実施方針、事業者公募、区域整備計画等を策定

ギャンブル等依存症対策研究会 外部委員(敬称略)

研究委員・ 専門委員の別	専門委員の 領域	氏 名	所 属 ・ 役 職
研究委員		井上 幸紀 (研究総括)	大阪市立大学大学院医学研究科教授・医学博士
		木戸 盛年	大阪商業大学経済学部助教・心理学博士
		西村 直之	一般社団法人RCPG代表理事・医学博士
専門委員	医学専門家	河本 泰信	よしの病院副院長・医学博士
		村井 俊哉	京都大学大学院医学研究科教授・医学博士
	現場医療者	西川 京子	新阿武山クリニック・精神保健福祉士
		藤井 望夢	藤井クリニック・精神保健福祉士
	法務	荒木 晋之介	ライオン橋法律事務所・弁護士
	患者家族団体・ 民間支援機関	寺田 邦敏	NPO法人ギャンブル依存症家族の会・家族の立場から支援
		三宅 隆之	(一財)ワンネスグループ・民間回復施設を運営

第1回ギャンブル等依存症対策研究会の概要

開催日時： 平成30年5月29日(火)午後4時から5時 場所： 大阪市役所5階大応接室
 出席委員： 井上研究委員、木戸研究委員、西村研究委員
 府市関係部局等職員： 坂本IR推進局長、籠本大阪精神医療センター院長、笹井大阪府こころの健康総合センター所長 ほか

委員名	主なご意見
井上委員	・ギャンブル等依存症対策については、「どこで」ということを意識して、どのようにやるのかということを検討しなければならない。 ・カジノエリア、夢洲エリア、大阪府域というエリアに応じた対策が実施できればと思っている。 ・前向きにギャンブル等依存症対策に取組み、府民の不安が払拭できるように努めていきたい。
木戸委員	・ギャンブル障害を増加させないことが大事だが、増加したのか抑制できたのかを知り、評価するためには、現状を正確に把握しなければならない。 ・実態調査に関しては、そう簡単ではなく、妥当な方法を用いた実態調査を、縦断的(経時的)に実施していくことは非常に重要である。
西村委員	・海外では、カジノの対策を通して得られた知見が蓄積されているので、これを広く他のギャンブルによる依存対策に活かすことができる。 ・ギャンブル依存は、否認の病であり本人からのアクセスがないと言われているが、海外では、本人アクセスが相当あるとする研究報告がかなり出ている。リカバリサポート・ネットワークにおける「ばちんこ依存問題電話相談事業」でも8割が本人からのもの。 ・事業者、民間支援機関、公的な相談・医療機関、それぞれに適した役割分担に沿った多層的・段階的なケアを検討していくべき。
籠本院長	・ギャンブル依存症は、家庭生活の破綻などの問題も併せもっており、医療だけでは対処できない。 ・ギャンブル等依存症の問題について、アルコール、薬物、精神疾患、パーソナリティ障害その他多くの問題の関係性をトータルにインクルーシヴ(包摂)して、この研究会で対策の枠組みを考えていきたい。
笹井所長	・当センターの専門相談のギャンブル依存症に関する相談実績は、H27年度33件、H28年度86件、H29年度207件。この3年で急増。一般的な相談例を紹介すると、本人は仕事をしておられるがギャンブルのせいで多額の借金を抱えているという家族からの深刻な相談が多い。 ・家族の方々の一番の思いは、「周囲や社会の誤解や偏見、ギャンブルの問題は本人の責任で家族も悪いと言われることが非常に辛い」「どこに相談していいかわからない」などである。 ・依存症の問題は、失業、生活困窮、自殺、虐待、DV、離婚など多様な問題を併せ持ち、複雑多岐にわたっている。こうしたことを念頭に対策を考えていきたい。研究会からIR事業者へより具体的対策を提案していく必要がある。

第2回ギャンブル等依存症対策研究会

開催日時：平成30年6月27日(水)午後2時から4時30分

出席委員：井上研究委員、木戸研究委員、西村研究委員、寺田専門委員、藤井専門委員、三宅専門委員

府市関係部局等職員：大阪精神医療センター、大阪府こころの健康総合センター、

大阪市こころの健康センター、府健康医療部地域保健課、府健康医療部健康医療総務課

研究テーマ：ギャンブル等依存症の実態把握に向けた調査・研究(相談事例の紹介など)

第3回ギャンブル等依存症対策研究会

開催日時：平成30年7月11日(水)午後2時30分から4時30分

出席委員：井上研究委員、木戸研究委員、西村研究委員、河本専門委員、藤井専門委員

府市関係部局等職員：大阪精神医療センター、大阪府こころの健康総合センター、

大阪市こころの健康センター、府健康医療部地域保健課、府健康医療部健康医療総務課

研究テーマ：大阪独自の依存症対策のあり方研究(IR事業者を求める対策、政策形成に向けた意見交換)

第4回ギャンブル等依存症対策研究会

開催日時：平成30年7月17日(火)午後2時30分から4時30分

出席委員：井上研究委員、木戸研究委員、西村研究委員、村井専門委員

府市関係部局等職員：府IT・業務改革課

研究テーマ：IT技術の進歩を踏まえた先進的な依存症対策の研究(IR事業者を求める対策、政策形成に向けた意見交換など)